

# よりそう



2012.5.18(金)

第176号

(No. 2)

編集責任

キリンの容子

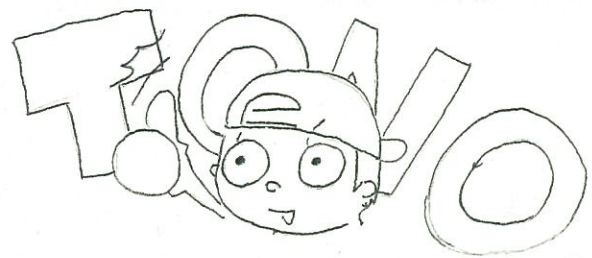
## 教育支援活動 (その2) 続き

そうした意味からも今日の工作会は反省すべきことが多々あった。私の一方的な「してあげたい」という思いからの工作会だったが、子どもにとってはどうであったろうか。到着してすぐに「今日何やるの?」と聞いてきたHくん(6)が「それ知ってる。つまんなそう。」と、帰ってしまった。彼に対するフォローができなかったことが悔やまれる。帰ってしまったことを「気分屋だから」「いつもそうだから」と流してしまわずに、一人ひとりの求めるものをさぐり、活動に取り込んでほしい。彼はあの日何かを期待してあの場にいたはずなのだから。

また、今日のような大人の側からの提案の工作会だとしても、終りに互いの作品を見せ合い、それぞれの工夫やいいところを認め合えたら、達成感や自信につながられたのではないかと思う。そうした一つひとつをメリハリのある活動にしていけば、静動に関わらず活動の中で満たされるものが作れるのではないかと思う。

子どもたちに対するケアは、益々重要になっている。時には専門家の指導やアドバイスを受けつつ、学校や地域・家庭との連携も必要だろうまごころネットとしては、そうした情報を得て、事前に参加ボランティアに丁寧にオリエンテーションし、一定の共通認識の上で子どもと関わるようにすれば、より効果的な時間や中身になると思う。活動が積み上がっていくことを期待し、私もできるだけ関わらせてもらいたいと思う。

愛知 ○



## 「遠野に来て〜」

どうも、こんにちは!

大阪市内から来た陽野と申します。

難波、心斎橋、ミナミ辺りによく出没します。

震災後 テレビ等の報道を見て、まだボランティアに行けなかったのですが、仕事上の都合で来れませんでした。

そこで、何か出来る事は無いかと、少しながら募金をしました。そして、2012年5月になり、長期休みができた為、遠野に来ました。

その頃の来る前の自分は震災に対しての意識も少なく、周りも「まだボランティアあるん?」的な反応でした。

でも、東北の状況は、たまたまのボランティアの方が居て、色々な作業やお手伝いがありました。

まだまだやる事だらけで、皆頑張って復興支援をし、住居の方も色んな思いで生活しています。「自分は何はほど、だから賛助的な生活をしてみよう」と実感しました。

復興のお手伝いに携わり、過去の自分を含め、風化され落ちていっているのが現状で、帰ったら家族、友人など付き合いのある人から、自分で言える範囲の出来事や想いなどを伝えたいと思います。

ほど、皆さんと作業した時間は本当に貴重な体験となりました!

ありがとうございました! おおきにー!